

2016 Japan National Team Report ” 国代表”



報告者氏名	桔川 裕司
大会名	2016 Optimist North American Championship
開催地	アンティグア
大会期間	2016年7月10日～18日

- 帰国後1ヶ月以内に、チームでまとめた上、JODA 海外派遣担当までメールにて送付して下さい
- JODA 理事会にて確認の後に、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
 1. このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
 2. なるべく客観的な立場から、詳細に記入して下さい
 3. 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい
- 写真資料について
 1. このレポートを補足する資料として必要です（文中に貼り付けて下さい）
 2. 他国OP艇を接近して撮影する際は、必ず相手国の選手、コーチの了解をとって下さい

開催地域の様子	滞在期間中ほとんどはバーと宿舎の往復で、治安上の不安を感じることはなかった。休憩日には大会手配のツアー、各自手配で首都セントジョーンズに食事・買い物に出かけたが同様に不安感はなかった。
宿泊場所	選手4名、役員2名：アンティグアヨットクラブ（主催者手配、大会開催バーから徒歩15分） サポーター2名：コンドミニウム（各自手配、アンティグアヨットクラブから徒歩2分）
大会の対応は	昨年北米選手権を開催していることもあり、対応は慣れていました。事前の問い合わせはメールで行ったが回答も速やかに行われた。現地でも主催者側の対応に不満は特になし。
選手たちのコンディションは？	体調を崩す選手もおらず、良好なコンディションで大会に臨むことができた。但し、公式到着日に現地入りしレース本番前の練習時間が限られていた（1回2時間程度）。学校予定等を考慮した全体日程に余裕が持てるのであれば、レース海面での練習時間をより多く取るのが望ましい。
役員として気をつけたことは？	チーム全体にストレスがつかからないよう、行程を円滑に進めること。大会側とのコミュニケーション（情報不足とならないように）
海外の選手を見て感じたことは？	練習・支援体制の充実（通常の練習量が多い（ニュージーランド、米国）、ナショナルチームコーチの同行（オーストラリア、スイス、米国、ニュージーランド等） コーチとの対話（海上でも選手から積極的にコーチと対話する（コーチボート共有した米国選手とコーチの様子から）

	<p>国により派遣体制は様々。親の同行者が少ない国、多い国。日本が特殊であるとは感じなかった。</p> <p>多くの国（少なくとも聞いたスイス、米国、オーストラリア、ニュージーランド）は、日本と同じように、派遣はワールド、ヨーロッパ、北米の順で割り当てている印象（北米地域国でもトップ選手を参加させているわけではない）</p>
日本の選手を見て感じたことは？	<p>他国選手ともっとコミュニケーションが取れるとよい。</p>
Spare day の過ごし方は？	<p>主催者手配のツアー（エイと触れ合う）に、他国選手と共に参加した。気分転換と共に、いい思い出作りが出来た。また首都セントジョンズに出かけ、レストランで食事及びお土産買い出しを行った。</p>
日本チームとしての課題	<p>上記の通り、通常練習量やナショナルチームコーチ派遣等で差はあると思うが、それらの改善には限界があると思われるので、選手実力アップのために各クラブにおいて最善の方法で練習の量、質を上げる努力を行う。</p>
JODAへの要望	<p>過去大会参加者の記録の共有（今回、特に昨年と同じ開催地であったことから参考になった）</p>
その他	<p>成田⇄ニューアーク⇄アンティグアの往復は料金の安さから United 航空で取ったが、発券後ニューアーク⇄アンティグア間でサイズ超過荷物預入は出来ないこと判明（料金を払ってもダメ）、結局、セールは折りたたんで持参した（結果は問題なし）。ポイド管で預入する場合は、予約時に預入可否や料金条件をしっかりと調べるのが肝要。</p>

ご協力ありがとうございました

JODA海外派遣委員会